

「地域資料を最新規格でお手軽に使いやすくしてみよう」

作業手順解説用資料

永崎研宣

IIIF Toolkit with Mirador (Omeka Plugin) and Neatline

IIIF Toolkit with Mirador は、Omeka <http://omeka.org/> という図書館・博物館・文書館・人文系研究者向けのコンテンツ管理システムで IIIF 対応コンテンツを手軽に使える（アノテーションをつけて Web に公開するなど）ようにしたものです。これに地図年表マッピングができるシステムも組み合わせると、以下の URL のようなものを作ることができます。

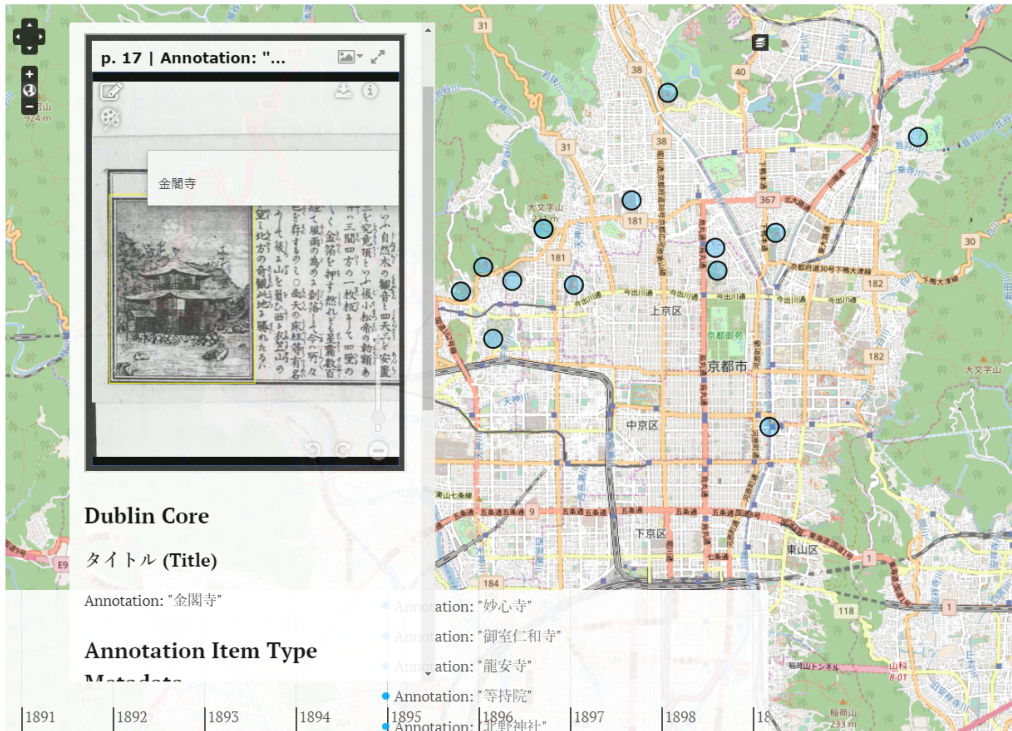
「デジタル展示 からいと」

http://digital.culturalresources.jp/omeka-yang/exhibits/show/karaito/karaito_intro

An Example of Virtual Collection

<http://digital.culturalresources.jp/iiifomeka/neatline/show/ndl-libcafe#records/15>

View Fullscreen



Dublin Core

タイトル (Title)
Annotation: "金閣寺"

Annotation Item Type

1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899
				Annotation: "妙心寺"				
				Annotation: "御室仁和寺"				
				Annotation: "龍安寺"				
				Annotation: "等持院"				
				Annotation: "北野神社"				

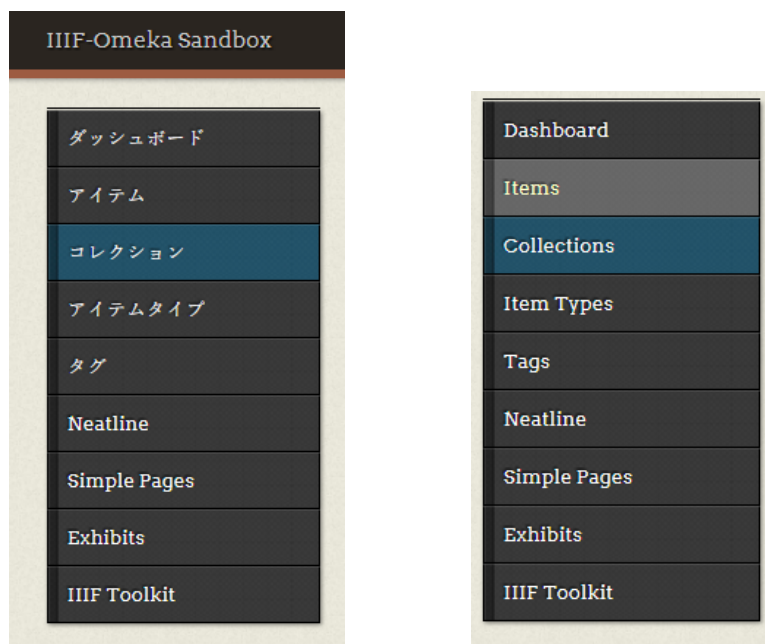
今回は、みなさんから申請していただいた NDL デジタルコレクションの資料を IIIF 対応させましたので、それを地図年表上にマッピングしてみましょう。流れとしては、まずは練習用の地図に 1 つか 2 つ、マッピングしてみた上で、本番用地図にマッピングしていただきます。ということで、IIIF コンテンツの投入～マッピングの仕方について、以下で解説します。

1.1. まずは、以下の URL にアクセスして、お手元のユーザ名・パスワードでログインしてみてください。

<http://digital.culturalresources.jp/iiifomeka/admin/>

1.2. マッピングしてみたいコンテンツの IIIF マニフェストの URL を探してきます。今回も、先ほどの 3 つのサイトが探しやすいと思います。が、先ほども利用したお手元の materials.html でも見つけることができます。なお、今回の場合、ページ数の少ないものの方が操作しやすいですので、ご注意ください。

1.3. では、その IIIF manifest を使って、IIIF 対応コンテンツをこのサイトに読み込ませてみましょう。ページの左側にあるメニューから「IIIF Toolkit」をクリックしてください。



- 1.4. 以下の画面で「manifest」と「From URL」を選んでください。また、画面の下の方に“Local Preview Size”と“Annotation Preview Size”という項目がありますので、512x512を仮に選んでおいてください。それから、“Set as Public”と“Set as Featured”にもチェックを入れておいてください。



IIF Toolkit

Import Items Status Maintenance

Import Items

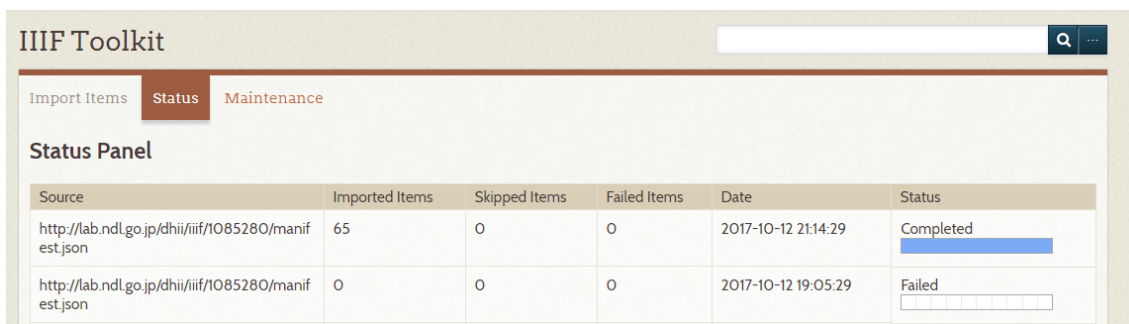
Type Manifest Canvas

Source From File From URL From Paste

Set as Public?

Set as Featured?

- 1.5. そうすると、IIF コンテンツの取り込みが始まり、以下のような画面になります。



IIF Toolkit

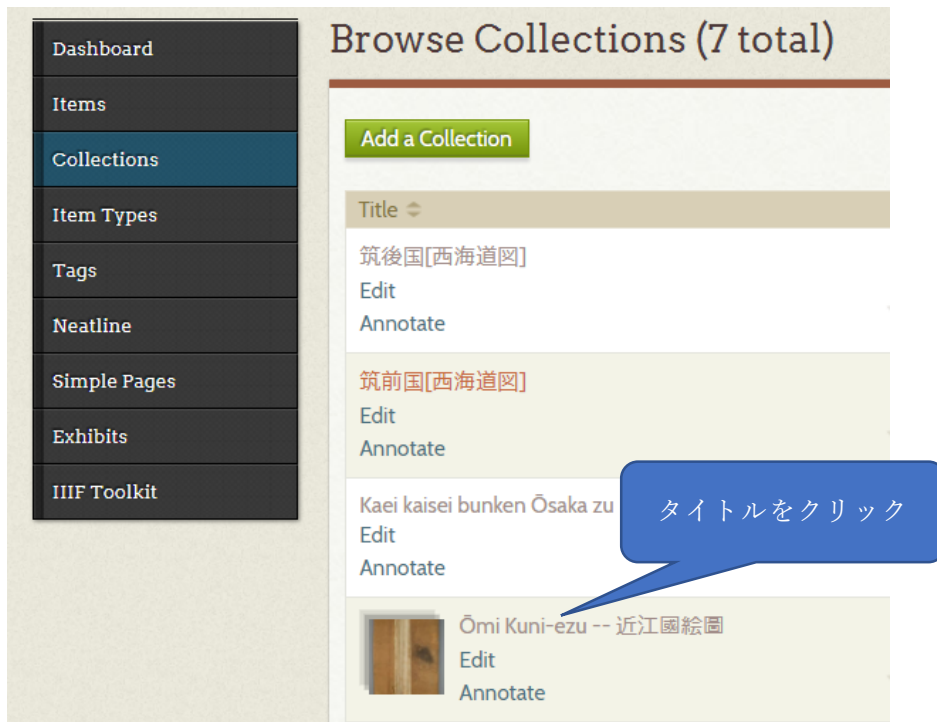
Import Items Status Maintenance

Status Panel

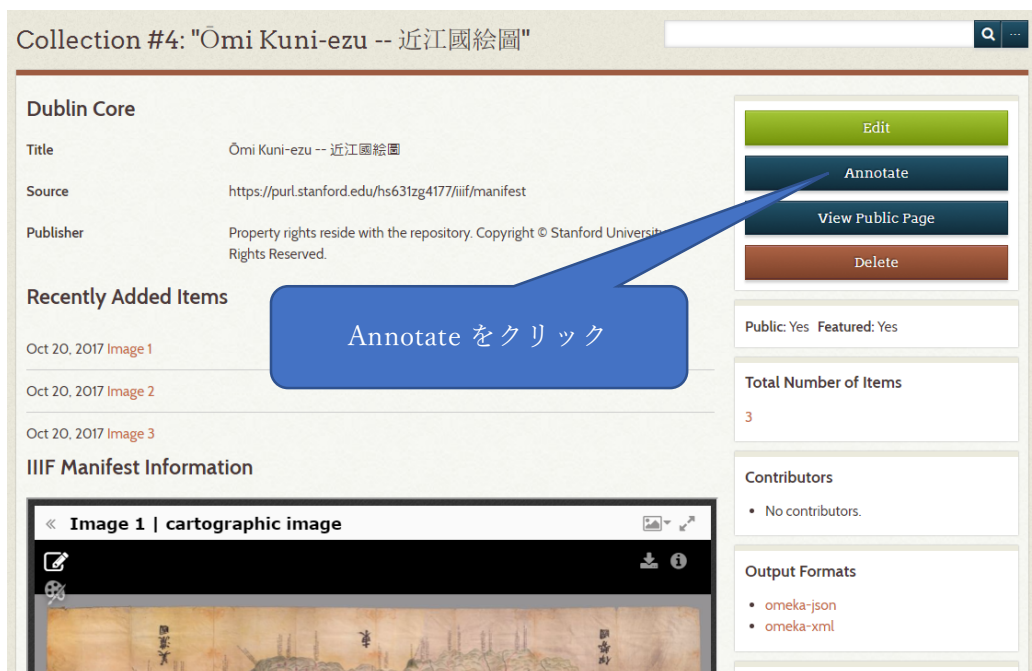
Source	Imported Items	Skipped Items	Failed Items	Date	Status
http://lab.ndl.go.jp/dhii/iif/1085280/manifest.json	65	0	0	2017-10-12 21:14:29	Completed
http://lab.ndl.go.jp/dhii/iif/1085280/manifest.json	0	0	0	2017-10-12 19:05:29	Failed

- 1.6. 自分のコンテンツの取り込みが終わったら、左側のメニューの「コレクション」をクリックしてください。そうすると、取り込んだ資料の名前が出ているはずです。出ていなければ、ページをめくっていくと見つかるはずです。なお、他の人が取り込んだコンテンツを削除しないようにご注意ください。

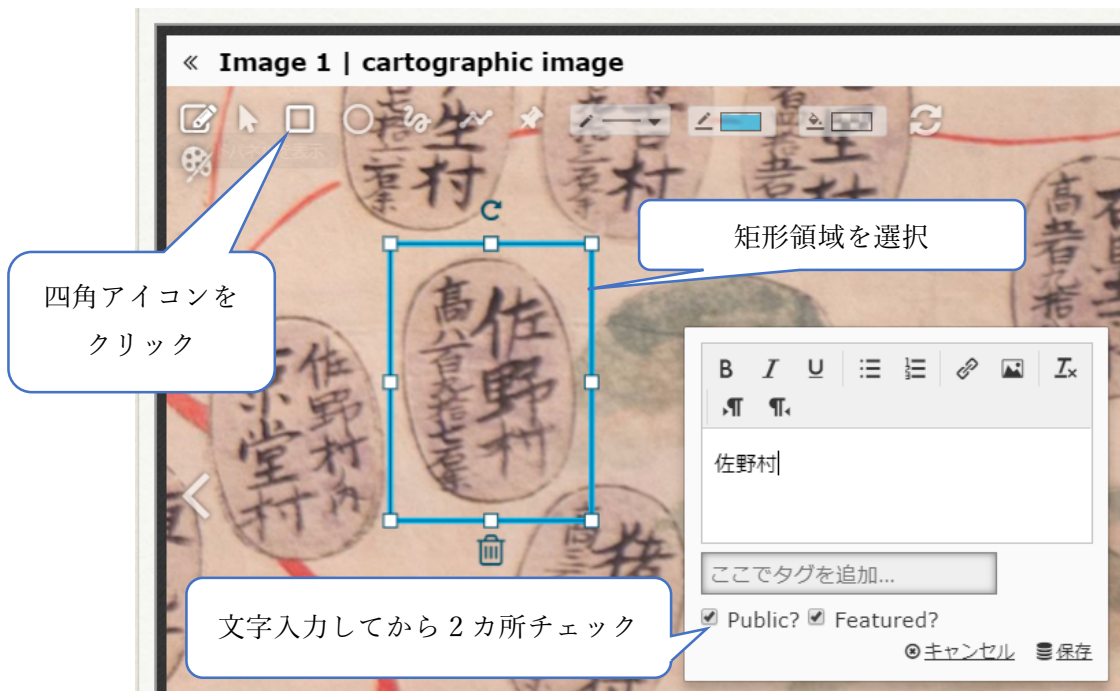
- 1.7. コレクションの中に、自分が取り込んだコンテンツをみつけたら、とりあえずそのタイトルをクリックしてください。



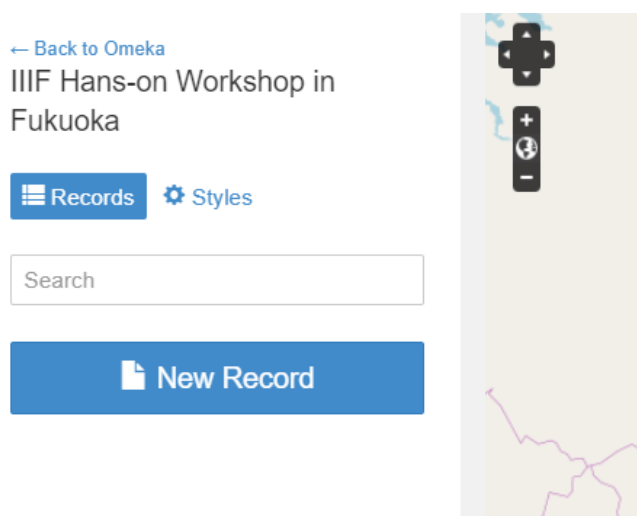
1.8. そうすると、以下のような画面になり、取り込めたメタデータの確認もできます。その上で、ここでは右上にある「Annotate」というボタンをクリックしてください。



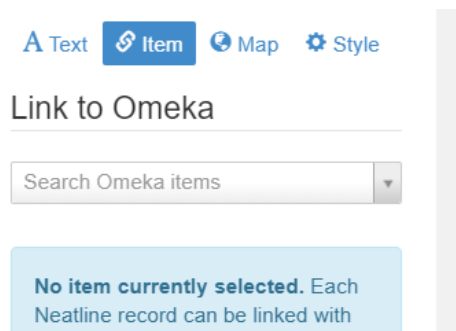
1.9. 以下の画面はアノテーションモードで、試しにアノテーションをつけようとしているところです。Public?と Featured?にはチェックを入れてください。



- 1.10. アノテーションをつけたら、次に、左側メニューの「Neatline」をクリックしてください。
- 1.11. そうすると、地図のリストが表示されますので、ここで 仮想コレクション@NDL ライブラリーカフェ をクリックしてください。
- 1.12. 地図が現れて、さらに左側にメニューが現れますので、「New Record」をクリックしてください。



- 1.13. 新規レコードの入力ができるようになりますが、ここで「Item」タブをクリックしてから、下図の”Search Omeka Items”のところで、先ほどつけたアノテーションを検索などで探してください。



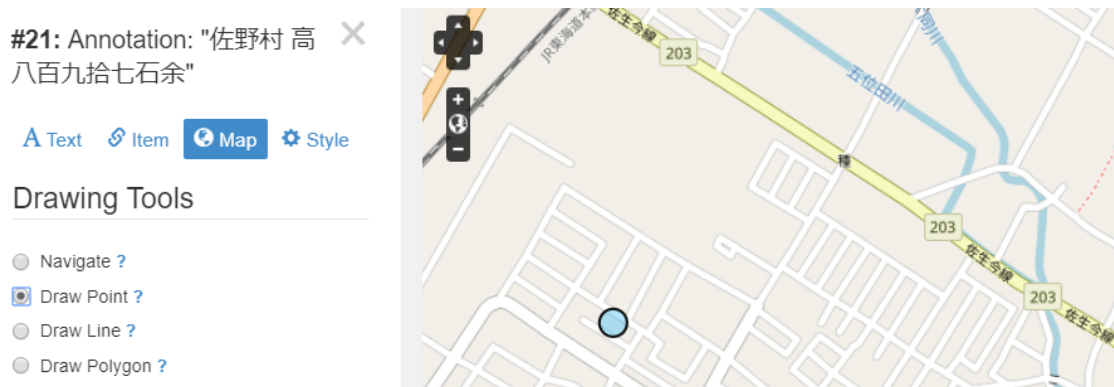
- 1.14. 先ほどつけたアノテーションを選択すると、以下のように、Mirador 上に画像が表示されるようになります。



- 1.15. 左側画面を一番下までスクロールすると”Save”ボタンがありますので、クリックして保存してください。



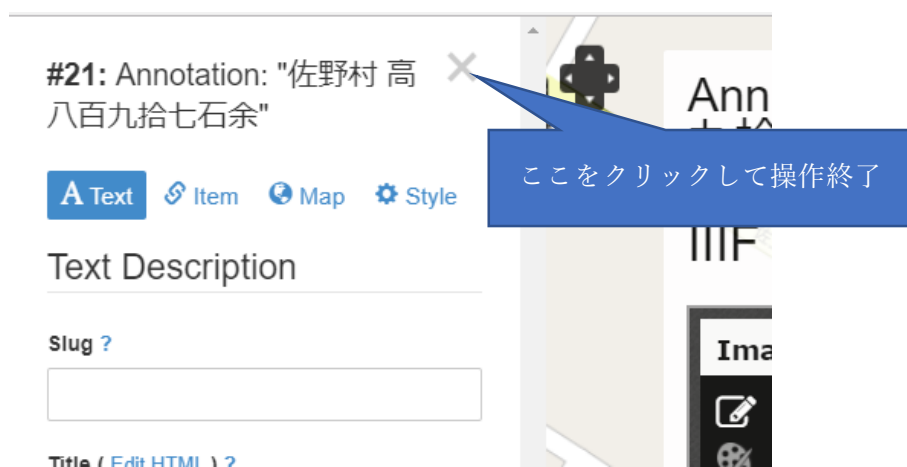
- 1.16. 次に「Map」タブをクリックして、地図を操作し、任意の場所を表示させてから「Draw Point」をチェックして、関連付けたい場所をクリックして、○をつけてください。そしてまた、「Save」をクリックしてください。



- 1.17. 年表にも載せたければ、「Style」タブをクリックして、「Widget」のところをクリックして「SIMILE Timeline」を選んでから、Start Date の項目に西暦で年号を入力してください。1990、1990-01、1990-01-01 という記法です。「Save」ボタンのクリックを忘れないようにしてください。

- 1.18. タイトルや説明をきちんと書きたい場合は、Text タブをクリックして、適宜入力してください。ここでも「Save」ボタンのクリックを忘れないようにしてください。

- 1.19. これで一つのアノテーションを地図年表上にプロットする操作は完了です。左側ウインドウの右上にある×アイコンをクリックして閉じてください。



- 1.20. 一般公開側から確認したいときは、「← Back to Omeka」をクリックしてから、確認したい地図の「Public View」をクリックしてください。

以上です。他にも色々な項目がありますので、気になるところに記入して試してみてください。ただいたりして、練習用地図でやり方が大体わかったら、本番用地図にてマッピングしてみてください。